

資料1 令和5年6月12日（月）
第9回 魅力ある新国立公文書館の展示・
運営の在り方に関する検討会

北米視察報告

実施日	視察先	出席委員
令和5年5月22日	アメリカ国立公文書記録管理局（NARA）新館	川口委員 川島委員
令和5年5月23日	アメリカ国立公文書記録管理局（NARA）本館	
令和5年5月25日	カナダ国立図書館・文書館	

アメリカ国立公文書記録管理局

National Archives and Records Administration

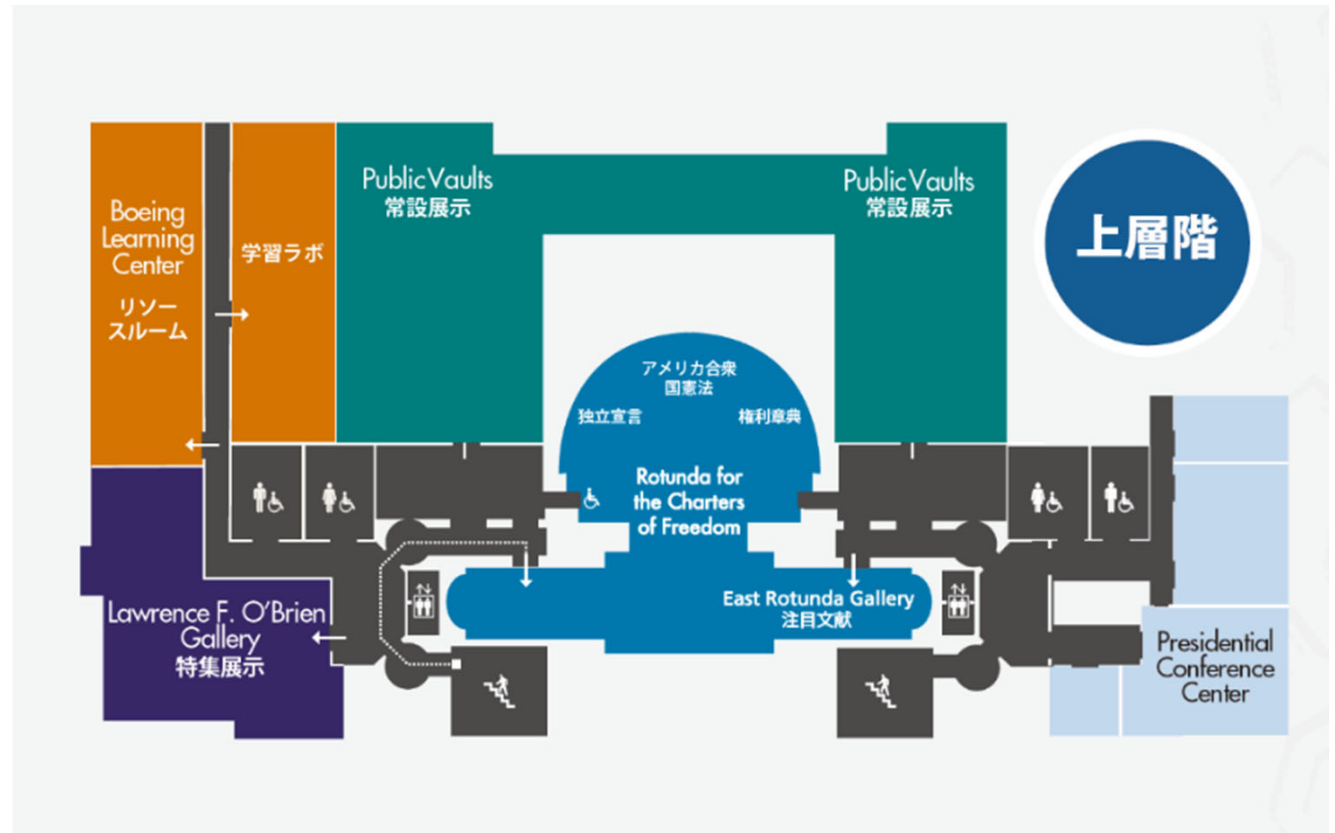
(NARA)

本館 ミュージアム

日時：2023年5月23日 9:00~10:30

場所：ワシントンDC

説明者：Ruskin氏（Head of Exhibits for the National Archives Museum）、Kamps氏（Curator, National Archives Museum）、Coddington氏（Museum Programs Division Education, Public Programs, and Visitor Services）



本館 ミュージアム

①ルービンスタインギャラリー（David M. Rubinstein Gallery）

- アフリカ系アメリカ人の権利、女性の権利、移民の権利など国民の権利に関する展示。
- 展示室の入口にマグナカルタの原本を展示。マグナカルタは館の所蔵ではなく、ルービンスタイン氏より寄託されているもの。民主主義の最も古い資料として展示している。独立宣言などのケースと同様の仕様のケースで、アルゴンガスが封入されているとともに、レーザーで環境モニタリングを行っている。（写真左）
- 展示室中央にあるインタラクティブテーブルは、平等の権利、自由と公正の権利などのカテゴリーを選び、関連する記録を見られるもの。表示する記録の追加を不定期的に行っている。（写真右）



↑中央のケースがマグナカルタの原本展示。両脇は関連情報を提供するタッチモニター



←インタラクティブテーブル。カテゴリーを選ぶと関連する記録が時系列で現れる。記録を選んでタッチすると、画面上で自由に拡大できる。資料についての印象にまつわる言葉（タグ）を画面上で資料に追加し、「共有する」のエリアへ、指でドラッグすると、タグが付いた資料の画像が壁面のモニターに現われ、周囲の人が見ることができる。

子どもが大人に使い方を教えている場面も見られる。

本館 ミュージアム

②公共の宝物庫（Public Vaults）

- 公文書をさまざまな視点から紹介する展示。タッチスクリーンがあまり普及していなかった時代に、サイエンスミュージアムのような体験型の手法を用いた実験的な展示であった。建国250周年（2026年）に向けて新しい展示に更新する計画。
- 展示室入口での映像で公文書がなぜ重要かを説明している。
- 独立宣言の印刷用の銅板とその銅板を使って印刷されたものを示すグラフィックがある。
- ジョージ・ワシントンからの手紙など、貴重な実物資料の展示のほか、さまざまな体験展示を設置。引き出し型の展示、めくったり回したりして答えがわかるクイズ形式の展示など、触って学ぶ体験装置も多い。（写真右）
- シール（印章）をつくる体験アイテムが最も人気。タッチスクリーンの端末でアイコンを選んで自分だけのシールを画面上で作ることができる。（写真次頁右上）
- 文書の保存、記録のデジタル化やライフサイクルなどを紹介する展示もある。（写真次頁右下）



↑ 公文書と聞いてもビジュアルのイメージが湧かない人が多いので、公文書が入っている箱が並んでいる様子を壁面で演出している。



↑ 以前使われていた公文書保管用の木の箱が並んでいる様子を再現している。



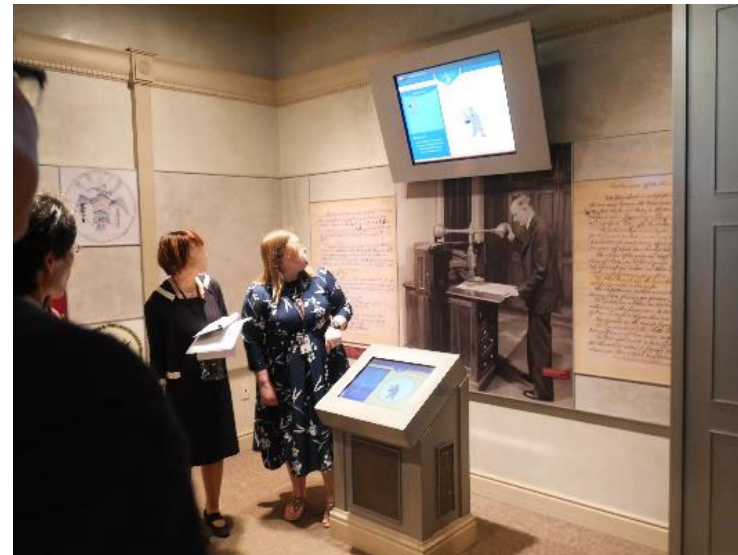
↑ 「あなたはアーカイブの中にいる？」という展示では、一般市民が公文書の中に登場する例を紹介、自分の祖先や家族の系譜を公文書を活用して調べられることを示している。

本館 ミュージアム

②公共の保管庫 (Public Vaults)



←本展示室は、アメリカ合衆国憲法の前文を軸にテーマ構成されており、右は前文の冒頭、「We the People」をテーマに、国民とアーカイブの関わりを紹介している。



←シール（印章）をつくる体験アイテム。手元のタッチスクリーンと同じものが上部のモニターにも映し出され、周りにいる人も見ることができる。



←D-Day（ノルマンディ上陸作戦の日）に関するドキュメンタリーやハリウッド映画は、ナショナル・アーカイブにある映像を活用していることを紹介。



←資料の保存や修復について「the Document Doctor」というタイトルで解説

本館 ミュージアム

③ロタンダ(Rotunda)

- 建国の土台となる3つの文書「自由の憲章」（独立宣言、アメリカ合衆国憲法、権利の章典）の原本を展示している。
- 原本展示に対してはタイトルのみ表示され、解説は行われていない。
- ロタンダ内部の東西の壁に展示ケースが7台ずつ設置され、それぞれの文書に対して、「どのように起こったのか」、「なぜ重要か」を解説するとともに、建国に関わった人々の紹介や関連する公文書（複製）を展示している。
- 東西の展示ケース内では、以前は原本展示を入れ替えながら展示していたが、建国のストーリーを一貫して見たいという来館者からの要望があり、展示資料は複製とし、常設で一連の解説を行っている。

（ロタンダは写真撮影不可）



Rotunda for the Charters of Freedom

<https://prolumeled.com/portfolio/item/rotunda-for-the-charters-of-freedom/>

④オブライアンギャラリー（企画展示室）

(Lawrence O'Brian Gallery)

- 一般市民にとって、NARAは記録を扱っている固いイメージがあるため、より活動の幅と深さを示すような企画展示を行っている。
- 今回はスポーツをテーマとした展示で、来館者にはモノ資料（メダルやユニフォーム、ボールなど）が訴求するため、大統領図書館などから借りた資料を展示している。



←企画展示室の入口。右壁面の映像はインタラクティブで、壁面に触れると映像が動くが、来館者はこれをインタラクティブだと感じず、触れる人が少ない。このような失敗例もありながら展示を企画しているとのこと。



←主に、モノ資料とスポーツに関連する画像を多用したグラフィックで構成

本館 ミュージアム

⑤ボーイング・ラーニングセンター（Boeing Learning Center）

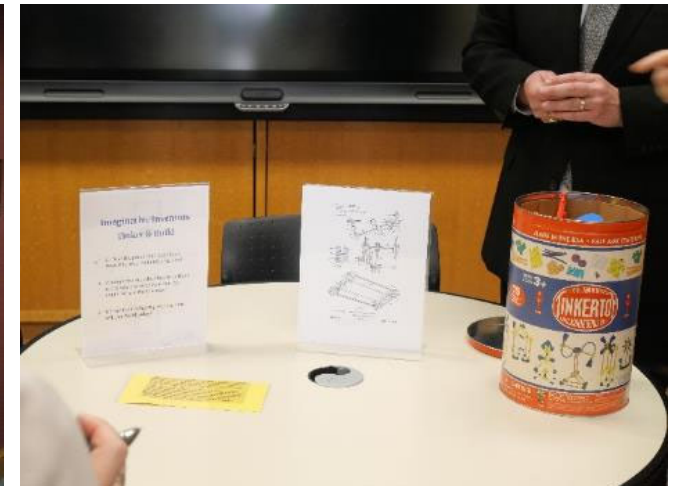
- 全ての年齢の来館者、ファミリー、学校団体を問わずハンズオンで調べたり探したりしながら学習できる場としている。
- 小さい子ども向けのスペースと、家族や学生向けのスペースを分けている。
- 人生は選択の連続であり、自ら選択をする力をつけることができる学習を重視している。家族単位で親が子どもに教えながら、家族で成長してもらいたい。
- 学習は教えることではなく「質問」から起こるというコンセプトで、なぜそれが起こったのか、どのようにして起こったのかを「問いかけ」をしながら学んでほしい（Inquiry-based learning）。
- 本施設の学習は展示室内を重視している。以前は学校団体向けに、ラーニングセンターのクラスルームでの学習を行っていたが、現在は、多くの時間を展示室内で過ごしてもらい、クラスルームでは、最初のオリエンテーションを行い、展示室を見て、再度戻ってきてから「展示室内で何が重要だと思ったか」をディスカッションするスタイルとしている。ミュージアムだからできることとして、本物を見てもらい、考えてもらうことに注力している。
- 航空宇宙機器メーカーのボーイングが協賛し、冠スポンサーとなっている（ナショナル・アーカイブス財団への寄付）。



↑家族・学生向けの学習スペース



↑ラーニングセンターが持つクラスルーム。小学生の団体がこの部屋でオリエンテーションを受け、ミュージアム見学後にディスカッションを行う。



↑おもちゃの特許情報を見ながら、どのようなおもちゃなのか、いつできたのか、発明者は誰か、などを探る体験

（ 参 考 ）

新館 リサーチルーム (Research Room)

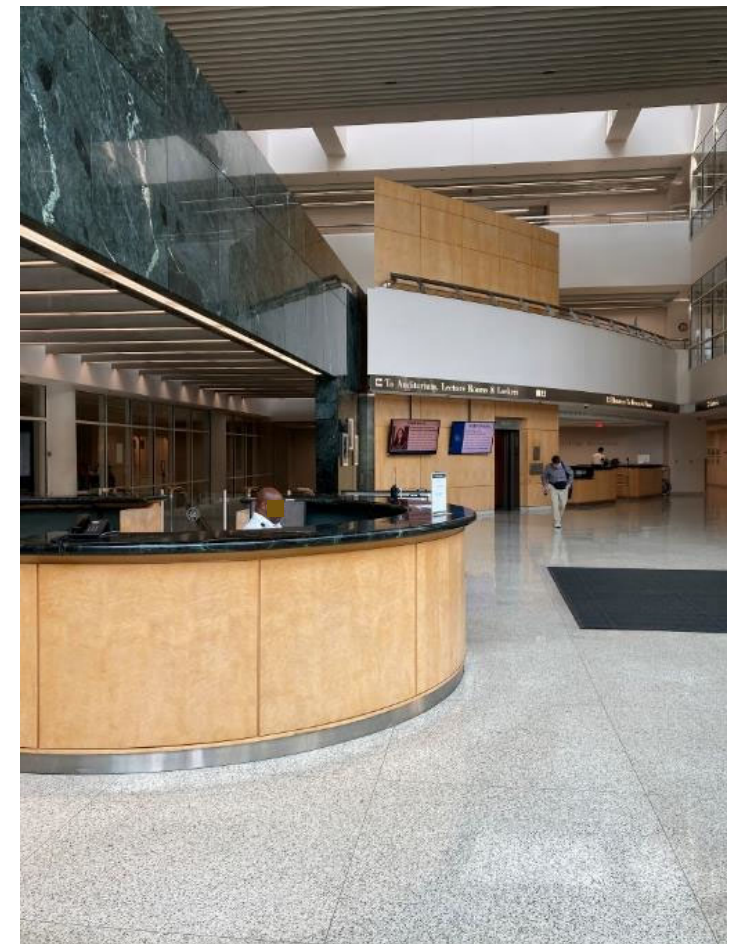
日 時：2023年5月22日 14:45~15:30

場 所：メリーランド州カレッジパーク

説明者：Kleiman氏（Program Analyst, Research Services）、Guay氏（the Archives II Reference Branch Chief, Research Rooms & Augmented Processing (RR2R)）

① テキスチュアルリサーチルーム (Textual Research Room)

- リサーチルームは、公文書に研究者などがアクセスする場である。新館にはテキスチュアルリサーチルームの他、下記のリサーチルームがある。
 - 2階：テキスチュアル、電子記録
 - 3階：地図・建築、ライブラリー
 - 4階：動画・音声、マイクロフィルム
 - 5階：写真
- 研究者のリクエストに合わせてNARAが必要な記録を集めた箱（アーカイブボックス）を作成し、研究者はそれをリサーチルームにて閲覧できる。
- 現在はアポイント制（コロナ前はアポイントの必要はなかった）。1階で登録を終えたら、まず3階のコンサルティングスペースでコンサルティングを受け、2階で必要事項を書いた札、プル・ストリップ（Pull Strip）を提出し、その札を元に公文書を探してもらうというプロセス。
- 室内にはプル・ログ（Pull Log）のモニターがあり、札でリクエストした公文書が用意できたかどうか名前と番号でわかるようになっている。
- 1年に36,000人の研究者が訪れる。
- 1900年以降の市民の記録、第一次世界大戦の陸軍の記録、第二次世界大戦の海軍の記録がある。1900年以前の資料はワシントンDCの本館に所蔵。



右上の白い壁面の内部が2階のテキスチュアル・リサーチルーム（リサーチルームは写真撮影不可）

（ 参 考 ）

新館 リサーチルーム (Research Room)

- データ化されていない（プロセスされていない）記録のボックスもある。大きなカテゴリーや記録の種類と所在の情報はデータベースにあるが、各記録のデータはない。5年前より、記録がNARAに移管されてきた際に基礎的な情報を入力することとなり、プロセスされていないボックスは減っている。
- NARAの定めた規定を満たしていれば、自分のスキャナーを持ち込むことが可能。貸し出しもある。そのことで、リサーチルームではスキャンをし、家で記録を見ることができるようになり、滞在時間が短くなった。
- スキャンする記録に対して申請は必要ない。写真撮影も可能で、照明を使える場所もある。
- 記録のデジタル化が進んでおり、同館を訪れてUSBメモリにダウンロードしたり、デジタルカタログでリモートで閲覧が可能な記録もある。デジタル化されている資料に対して、データではなく実物資料が見たいという場合は申請をしてもらい、ケースバイケースで対応している。
- デジタル化して、デジタルカタログに載るまで2～3か月かかる。その間はリモートでは見ることができず、このリサーチルームに来れば見られる。

②ホールドエリア (Hold Area)

- 研究者などからのリクエストで記録をボックスに入れたものを一時保管するエリア。職員が内容を確認するまではホールド状態としてこの場所に置かれる。
- ボックスの情報はデータマネジメントシステムに入れて管理している。

③コンサルテーションルーム (Consultation Room)

- 以前よりスペースが大きくなり、海軍、陸軍、空軍、文民というテーマに分かれている。
- 研究者はまずemailでNARAにコンタクトしてやりとりするが、このコンサルテーションルームに来て対面で話す場合も多い。リモートで見ることができるデジタル化された記録もあるが、質問がある研究者は直接訪れ、記録を見ながらコンサルテーションを受ける。
- NARAへの研究者の問い合わせのemailは1年に17,000件。



↑コンサルテーションルームの一部。左側のモニターがプル・ログ（Pull Log）で、リクエストへの対応状況がわかるようになっている。

カナダ国立図書館・文書館

Library and Archives Canada (LAC)

基本情報

- カナダ国立図書館・文書館は、カナダ人が自らのアイデンティティを理解することを促進するため、政府の継続的な記録を行うとともに、カナダの歴史を守る機関である。
- 2004年に国立図書館、国立文書館という2つの機関が統合してカナダ国立図書館・文書館となった。国立図書館は、国の情報の永続的な収集を行う施設であり、出版物のほか、貴重な書籍や関連する印刷物を収集するとともに、国の歴史についての重要な情報を書籍、雑誌や新聞、音楽等を通じて国民が利用できるようにする施設。国立文書館は国の歴史を記録し、解釈するための資料を収集し、保管する施設である。
- 国内に、オタワ、ハリファックス、ウィニペグ、バンクーバの4施設がある。コレクションの多くはオタワの施設にて閲覧可能。
- オタワの施設から車で20分程度の場所（ガティノー）に保管庫としてプリザベーション・センター（Preservation Centre）を持つ。また、プリザベーション・センターに隣接して、2022年に新しい保管施設プリザベーション・ストレージ・ファシリティ（Preservation Storage Facility）をオープン。自動化された保管庫を整備。
- LACとオタワ公立図書館が協働で図書館を中心とした新施設「アディソケ（Ādisōke）」を計画中であり、2026年オープン予定。建築デザインを地域住民や先住民族等の参加型プロセスで推進した。



←オタワ・ダウンタウンのLACの施設。リサーチルームや展示室など、一般開放スペースを備えている。



↑プリザベーションセンター。保管庫と修復ラボを持つガラス張りの建物。

新施設 アディソケ（Ādisōke）について

2026年にオープンする、オタワ市立図書館との協働で建設中の新しい施設。所有権は、オタワ市立図書館が61%、LACが39%と取り決めている。

■建設プロジェクトについて

- LACはビジョン2030を掲げ、利用者と連携をとることを一つの目標としており、アディソケでも利用者を中心に据え、多様な利用者を迎えることをめざしている。現在、LACの利用者は年間3万人であるが、新施設では、オタワ市立図書館部分も含め、年間170万人の利用を予測している。ユニバーサルアクセスと平等のデザイン基準を通じて、全ての人々がアクセス可能な環境をつくる。
- プロジェクトの総事業費は3億2,300万カナダドル（約333億9,000万円）。LACはうち、1億3,600万カナダドル（約140億6,000万円）を出資。 *1カナダドル=103.36円（2023年5月31日現在）にて換算
- 同施設が建設される場所は、もともと先住民アニシナベ・アルゴンキンの土地であり、LACは2つの先住民コミュニティとディスカッションを重ね、関係づくり・傾聴・脱植民地化・和解の精神のもと、コラボレーションを行った。結果、先住民側からアディソケ（ストーリーを語るの意）を施設名として提案を受け、採用することとなった。
- 将来的に、LACは現在のオタワ・ダウンタウンの施設からアディソケに引っ越しをすることになる。

新施設 アディソケ（Ādisōke）について

■建物の特徴

- 現在のLAC・オタワから徒歩5分の土地に建設中であり、この地区のモダンな建物としてランドマーク的な存在になるとともに、カナダで初めて、温室効果ガス排出ネットゼロの建物として、強靱で持続可能な施設をめざしている。
- いままでなかった規模での市民参加の方法で建築のデザインを進めた。デザインワークショップやオンラインでのセッション、全国規模でのオンライン調査を実施、7,000人以上が参加した。
- 内装は市民の要望で、暖かい、歓迎する雰囲気が求められており、木を使った仕上げや植物のグリーンウォールなどもとりにいれている。多くの人に利用してほしいという意図から、従来の静かなリサーチルームのほか、オープンスペース、自ら発見するようなスペース、コーヒーが飲めるスペースも用意する。
- 屋外では先住民特有の植物を植え、先住民の会合の場をモチーフとした集まれるスペースを設けている。

新施設 アディソケ（Ādisōke）について

■施設構成

- 1階：中央に集まれるスペース、多目的ルーム、LACオリエンテーションスペース、展示スペース（企画展）など
- 2階：ジニオロジー（系譜）センター、先住民センター、子どものスペースなど。ジニオロジーセンターは、従来型のリサーチルームに加え、ジニオロジー・オープン・エリアを設け、インタラクティブに家族の歴史を調べることができるスペースも設ける。
- 3-4階：メインのリサーチ・閲覧ルーム、デジタル化センター（デジラボ）を2フロアに集約し、シームレスに使いやすいものとする。
- 4階：ヘリテージ・ラウンジ（コーヒーを飲みながら読書をしたたりくつろいだりできる場）、ラーニング・ロフト（多様な人がさまざまな体験ができるメイカースペース：所蔵資料を活用したポスターづくり、印刷など）
- 5階：レセプション・ルーム（イベント、パーティなどができるスペース）、レストラン、読書室

（ 参 考 ）

カナダ国立図書館・文書館 オタワ

(Library and Archives Canada, Ottawa location)

日 時：2023年5月25日 13:30~14:30

場 所：オンタリオ州・オタワ

説明者：Tremblay-Goodyer氏（Director, User Experience and Services Strategy）, Murray氏（Senior Reference Archivist, Access and Services Branch）

一般市民、研究者が利用できるリファレンスルーム、コンサルティングルーム、ジニアロジールーム、スペシャル・コレクションルーム、デジラボ、展示室などを持つ。建物内の各フロアに機能が分散しているため、新施設・アディソケでは、機能を同じフロアに集約する。

1F

①展示室（Exhibition room）

- 企画展示を行う場。現在はスペイン大使館と共同でピカソの展示を行っている。

2F

②リファレンスルーム （Reference Room）

- 利用者は、まずリファレンスルームにアクセスする。テキスト、写真、地図などさまざまな記録にアクセスできるリサーチツール（カードカタログ、エクセルファイル）が用意されている。
- 記録のデジタル化を進めており、現在、電子化された記録は50億MB、リクエストに応じてセキュアメールで提供している。



↑ 展示室



↑ リファレンスルームのカードカタログ

（ 参 考 ）

カナダ国立図書館・文書館 オタワ

（Library and Archives Canada, Ottawa location）

2F

③ペランルーム（Pellan room）

- 画家、アルフレッド・ペランの壁画が展示されている部屋であり、イベントに使用している。

3F

④コンサルティングルーム（Consultation room）

- 文書資料、マイクロフォーム、制限された文書の 카테고리ごとにコンサルティングルームが用意されている。

⑤スペシャル・コレクションルーム（Special collections room）

- 写真、地図、音響・映像資料や、脆弱なコレクションを扱う場所。閲覧時に資料をサポートするツールを用意している。
- 音響・映像資料に関して、さまざまな媒体にアクセスできるよう、多様なAV機器を用意している。脆弱なものやフォーマットがサポートできないものを優先してデジタル化を進めている。デジタル化に関しては現在戦略を作成しており、夏の終わりには完成する予定。

⑥デジラボ（Digilab）

- 利用者が資料をデジタル化できる場。スキャナーやカメラを用意し、利用者に対して使い方などの研修も行っている。
- 利用者は自らデジタル化した資料をLACのウェブサイトアップロードし、同機関のデジタルコレクションの充実につながっており、WIN-WINの関係を築けている。

⑥ジニオロジールーム（Genealogy room）

- 本施設内で、最も来館者が訪れる場であり、カナダ全国からリソースを集積しており、カナダ人が自分の系譜を調べることができる。今年は1931年の国勢調査の内容が公開される年であり、人々がより多くの情報にアクセスできるようになる。



↑ ペランルーム



↑ スペシャル・コレクションルーム

（ 参 考 ）

プリザベーションセンター

（Preservation Centre）

日 時：2023年5月25日 9:00~11:30

場 所：ケベック州・ガティノー

説明者：Weir氏（Librarian and Archivist of Canada）, Tremblay-Goodyer氏（Director, User Experience and Services Strategy）, Letang氏（Public Event Coordinator, User Experience and Engagement）

- 1997年にオープンした施設。建築家のロン・ケーンベルグが設計。マニトバ州の自然をコンセプトとしたデザインとなっている。
- 5階建てで、1~3階が保管庫、4階が機械室、5階がラボ（修復エリア）である。
- 1時間に7回、空気を清浄している。カナダは外気温が-30度から30度まで変化するため、室内を適正温度に保つ設備を整えている。
- 5階の修復エリアは修復作業の際、手元が良く見えるよう、日光が入ることを重視している。資料への紫外線の影響を防ぐため、毎晩、資料は箱の中に入れる、ブランケットをかけるなどの工夫をしている。
- 各ワークステーションはキャスターがついており、自由に動かして場所を変えられるようになっている。壁面も位置を変更することができ、小さいスペースや大きいスペースを自由につくることができる。
- 絵画の保管庫では、寄贈された作品を収蔵している。カナダに関する人、ストーリーや出来事が描かれた「ドキュメンタリー・アート」の条件を満たしていれば寄贈を受け付けている。



↑5階から見たエントランス。外壁はガラスとステンレスでできている。



↑ラボの様子。奥の透明な部屋はグリーンハウスを模してつくられ、化学物質を利用したり、大きな音が出たりする作業を行う場としている。

（ 参 考 ）

プリザベーション・ストレージ・ファシリティ

(Preservation Storage Facility)

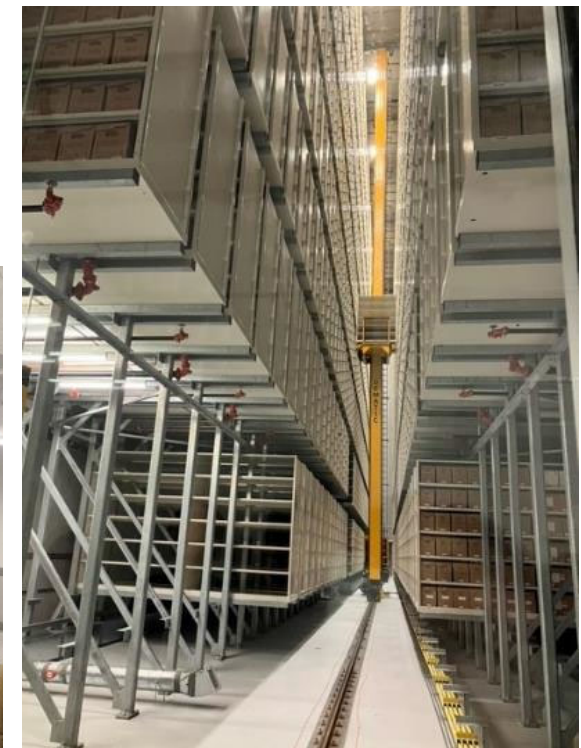
- 2022年にオープン。外壁のタイルは地層をイメージしてデザインされた。将来的には建物に映像を投影しイベントを行うことも計画している。
- 本施設内の保管庫はコンピュータ制御されており、保管庫内は無人でオペレーションしている。資料をロボットが取りにいき、収納する。保管庫は6つあり、うち5つの保管庫は同じ温湿度、1つのフィルムの保管庫は異なる温湿度を保っている。
- 保管庫から取り出すリクエストとその状況がモニターで表示されている。また、保管庫内の温湿度は常にチェックされており、モニターで表示するとともに、大きな温湿度の変化があった場合は担当者へメッセージが送られる仕組みとなっている。
- 熱、煙、炎、水を検知する監視システムを導入しており、火災の場合に水が必要な場合は、エリアを区切って水を利用するしくみとなっている。



↑ (左) 記録を取り出すリクエストの状況を示す表と、(右) 保管庫内の温湿度の状態を表示する図。



↑ 各保管庫から取り出されたボックスを出荷、外から運び込まれたボックスを保管庫に入荷するステーション。



↑ 保管庫内のロボットが68mの高さのクレーンを使ってボックスを取り出す。